

外科領域における Sulfamethoxazole-Trimethoprim 合剤の 臨床試用成績について

白羽弥右衛門

大阪市立大学医学部第二外科学教室

川 畑 徳 幸

大阪市立桃山市民病院外科

中 尾 純 一

長吉総合病院外科

在来サルファ剤には外科的感染症に対する治療効果を期待できないといつても過言ではあるまい。しかし、このたび、使用の機会を得た sulfamethoxazole-trimethoprim 合剤（以下 ST 合剤と略す）は、それぞれの成分が細菌の核酸合成を合理的に阻害するので、抗菌力の相乗的増強を期待できるといわれている。

われわれは、外科的感染症のうち急性軟部感染症に限って ST 合剤を使用し、その臨床効果を検討したので、その結果をここに報告する。

臨 床 成 績

フルンケル（面疔、瘰癧を含む）22例、乳腺炎2例、カルブンケル、感染性粉瘤、感染性異物、感染性鶏眼、肛門周囲炎の各1例ずつの計29例の急性軟部感染症に ST 合剤を使用した。

ST 合剤の投与量は、1日4錠（1錠中 sulfamethoxazole 400 mg, trimethoprim 80 mg）を分2で、3日ないし11日間、投与総量は12錠ないし44錠であつた。

化学療法学会で定められた抗生剤の効果判定基準にしたがつて、ST 合剤の臨床効果を判定したが、われわれは、すくなくとも2つ以上の炎症々状の好転したものを有効とし、投与期間が短期日ではあつても炎症々状の好転をみず、なお排膿が持続したものの、または増悪したものを無効と判定した。

使用症例を一括して表1に示した。

治験29症例中、菌検索を行なえたものは12例にすぎないが、この12例中11例は黄色ブドウ球菌の単独感染、他の1例は黄色ブドウ球菌とクレブシエラの混合感染であつた。

Sulfamethoxazole（以下 SMX と略す）ディスクで感性を示した黄色ブドウ球菌感染症8例のうち7例に対して ST 合剤が有効と判定されたが、1例は投与期間中に来院しなくなり、効果を判定できなかつた。SMX ディスクに耐性を示した黄色ブドウ球菌感染症4例のなかでは、ST 合剤が1例にのみ有効と判定され、3例に対

してはやはり無効であつた。

ST 合剤投与症例のうち外科的処置（切開、排膿）を加えた群と、これを加えなかつた群とにわけて、治療効果をみると、切開を加えた13症例のうち12例に対しては ST 合剤が有効と判定されたが、切開を加えられなかつた16症例のなかでは有効と判定されたものが8例にすぎず、他の8例では ST 合剤が無効であつた（表2）。

症例1 72才男 右下腿癰

約1週間前から右下腿前面にクルミ大の発赤腫脹があり、軽度の圧痛と波動が証明された。そこで、切開の上、菌検索を行なつたところ、表1に示すとおり、黄色ブドウ球菌とクレブシエラの混合感染であつた。ST 合剤1日4錠を分2で、6日間経口投与したところ、投与開始後2日目には炎症々状が改善されて、排膿もほとんど消失した。投与開始後7日目の菌検索では、黄色ブドウ球菌は証明されず、クレブシエラのみが検出されたが、創は良性肉芽となり、投与開始後12日目には創が完治した（表1）。

症例19 38才女 腹部癰

約10日前から下腹部に有痛性の発赤腫脹があらわれ、来院時には圧痛があり、波動が証明された。切開のうえ菌検索を行なつたところ、PCG, SM, KM, CP, TC および CEX には感性を示し、SMX および CL に耐性を示す黄色ブドウ球菌が証明された。ST 合剤1日4錠を2分、6日間投与したところ、投与開始後2日目には発赤の消退と腫脹の軽減をみ、投与開始後4日目にはもはや排膿を認めず、肉芽は良性となつて、投与開始後7日目には完治した（表1）。

症例29 31才女 右乳腺炎

右乳房上半部に有痛性の発赤、腫脹があり、圧痛を訴え、クルミ大の硬結を触知したが、波動は認められず、小切開を加えたところ、膿汁は見出されなかつた。しかし、菌検索の結果では、CL のみに耐性を示し、他の薬剤に感受性を示す黄色ブドウ球菌が証明された。ST 合

表1 ST 合剤使用症例

症 例 番 号	氏 名	年 令	性 別	病 名	検出菌	感受性試験(ディスク)								1 日 投 与 量	投 与 日 数	投 与 総 量	効 果	副 作 用
						SMX	PCG	SM	KM	CP	TC	CL	CEX					
1	T. N.	72	♂	右下腿癰	黄ブ菌 クレブシ エラ	卅	卅	卅	卅	卅	卅	一	卅	錠 4	日 6	錠 24	有効	一
2	K. T.	42	♂	頭部癰		一	一	卅	卅	卅	卅	一	卅	4	3	12	不能	一
3	M. K.	41	♀	左乳腺炎										4	5	20	無効	一
4	H. N.	14	♂	左下腿癰										4	6	24	有効	一
5	R. M.	31	♂	右前腕癰	黄ブ菌	一	卅	卅	卅	卅	卅	一	卅	4	6	24	無効	一
6	K. N.	32	♀	腹部癰	黄ブ菌	一	一	卅	卅	+	+	一	卅	4	5	20	無効	一
7	A. W.	41	♂	感染性鶏眼										4	3	12	無効	一
8	A. N.	53	♂	感染性粉瘤										4	5	20	有効	一
9	K. N.	30	♀	右拇指瘰癧										4	3	12	不能	一
10	M. K.	25	♂	右臀部癰		卅	卅	卅	卅	卅	卅	一	卅	4	5	20	有効	一
11	T. H.	24	♂	右臀部癰	黄ブ菌									4	5	20	有効	一
12	K. N.	59	♀	面 疔										4	3	12	有効	一
13	Y. M.	14	♀	顔面癰症										4	6	24	有効	一
14	Y. I.	48	♀	右足関節部癰										4	5	20	無効	一
15	N. A.	44	♀	頭部癰	黄ブ菌									4	5	20	有効	一
16	S. K.	20	♂	左足癰		卅	卅	卅	卅	卅	卅	一	卅	4	6	24	有効	一
17	D. T.	69	♂	感染性異物										4	3	12	有効	一
18	Y. O.	80	♂	左臀部癰		卅	卅	卅	卅	卅	卅	一	卅	4	3	12	不能	一
19	T. Y.	38	♀	腹部癰	黄ブ菌	一	卅	卅	卅	卅	卅	一	卅	4	6	24	有効	一
20	S. K.	62	♀	腰部カルブンケル										4	8	32	有効	一
21	K. M.	76	♀	右拇指爪周囲炎										4	11	44	有効	一
22	M. U.	35	♂	肛門周囲炎										4	4	16	有効	一
23	K. T.	17	♀	右大腿癰		卅	卅	卅	卅	卅	卅	一	卅	4	3	12	有効	一
24	H. T.	10	♂	右拇指瘰癧	黄ブ菌									3	6	18	有効	一
25	S. M.	22	♀	左拇指瘰癧		卅	卅	卅	卅	卅	卅	一	卅	4	5	20	有効	一
26	M. T.	12	♀	右環指瘰癧										4	6	24	有効	一
27	H. H.	40	♂	右上腕癰		一	卅	卅	卅	卅	卅	一	卅	4	3	12	無効	一
28	H. M.	38	♂	腹部癰	黄ブ菌	卅	卅	卅	卅	卅	卅	一	卅	4	5	20	有効	一
29	O. N.	31	♀	右乳腺炎	黄ブ菌	+	卅	卅	+	卅	卅	一	卅	4	6	24	有効	一

剤1日4錠を分2, 6日間投与したところ, 投与開始後3日目には発赤, 疼痛の軽減とともに硬結もやや縮小し,

表2 外科的処置と臨床成績

外科的処置	症例	効果判定		
		有効	無効	不能
切開をしたもの	13	12	1	
未切開のもの	16	8	5	3
計	29	20	6	3

表3 疾患別臨床成績

ST合剤投与症例		効果		
		有効	無効	判定不能
フルンケル (面疔, 癰疽を含む)	22	15	4	3
カルブンケル	1	1		
乳 腺 炎	2	1	1	
感染性粉瘤	1	1		
感染性異物	1	1		
感染性鶏眼	1		1	
肛門周囲炎	1	1		
計	29	20	6	3

圧痛も軽減してきた。投与開始後11日目の創は完治した(表1)。

ST合剤使用症例をまとめてみると, 表3のとおりである。すなわち, フルンケル(面疔, 癰疽を含む)22症例中15例で有効と判定され, 4例が無効, 3例が判定不能であつた。総数29例中20例が有効, 6例が無効, 3例が判定不能となり, その有効率は76.9%となった。

副作用

本剤の副作用としては胃腸障害, アレルギー, その他が記載されているが, 投与症例29例のなかで副作用を認めたものは1例もなかった。

むすび

化学療法学会で定められた抗生剤の効果判定基準にしたがつて, ST合剤の効果判定を行なつたが, 対象が外来患者であつたために, 白血球数の推移, 起因菌の陰転化などを追求することが困難であり, また, 外科的処置(切開)などの有無によつて効果判定の結果に大差を生じることも考えられるので, 局所の炎症症状の寛解という点を重視した。

以上の所見からみると, ST合剤は, 急性軟部感染症の治療剤として臨床効果を期待できる新化学療法剤であると考ええる。

なお, 本論文の要旨は第19回日本化学療法学会総会(昭和46年6月12日)において発表した。

CLINICAL STUDIES OF SULFAMETHOXAZOLE-TRIMETHOPRIM COMBINATION PRODUCT IN SURGICAL INFECTIONS

YAEMON SHIRAHA

Second Department of Surgery, Osaka City University, Medical School

TOKUYUKI KAWABATA

Department of Surgery, Osaka Municipal Momoyama Hospital

JUNICHI NAKAO

Department of Surgery, Nagayoshi Sogo Hospital

We have attempted to assess the therapeutic efficacy of sulfamethoxazole(SMX)-trimethoprim (TMP) combination product according to the criteria established by the Japan Society of Chemotherapy for the evaluation of antimicrobial agents. It was difficult, however, to follow up the changes in leukocyte counts and results of bacteriological studies because the clinical materials were limited to ambulatory out-patients. The therapeutic response may also be significantly influenced by such factor as surgical incision. Accordingly, our clinical assessment had to largely rely upon the improvement in local inflammatory manifestations. Our clinical experience indicates that SMX-TMP combination product is a new effective antimicrobial agent for the treatment of acute soft part infections.